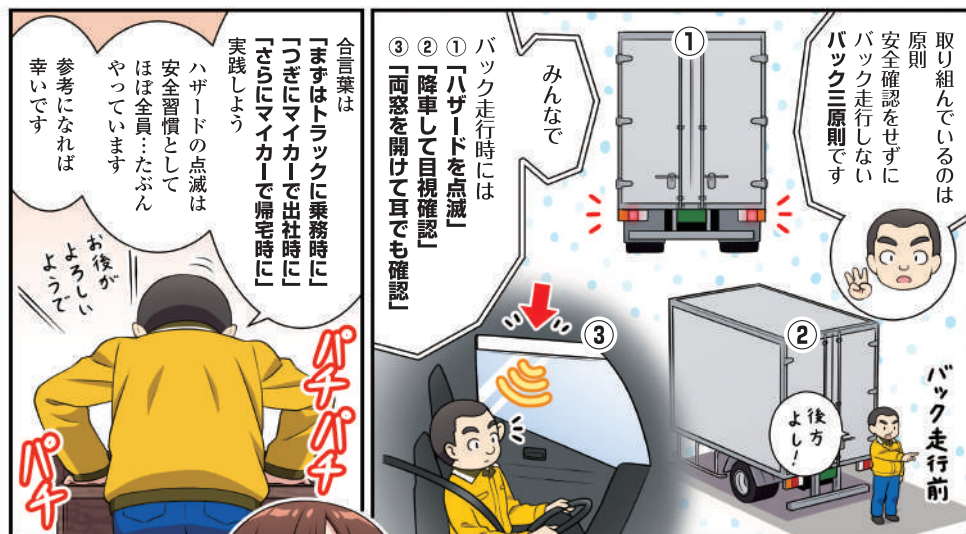




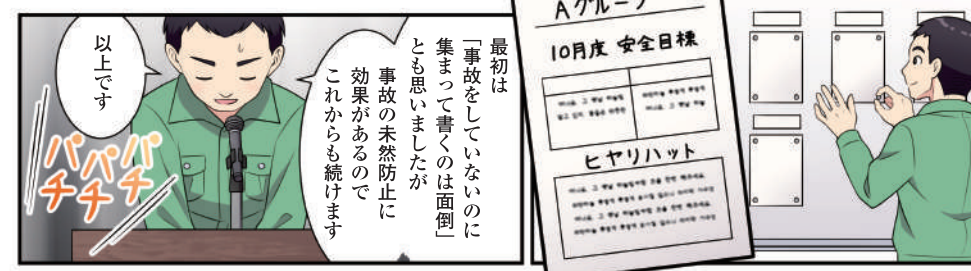
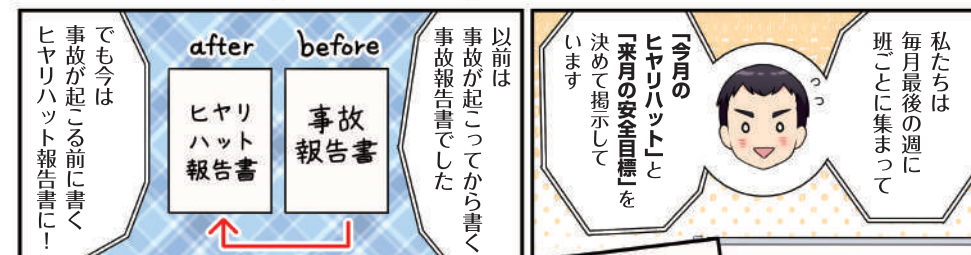
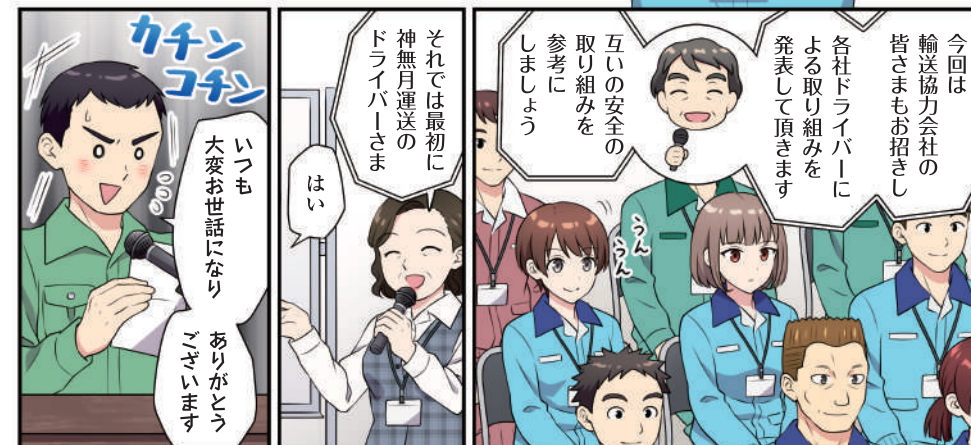
・・・今日も快晴!・・・ トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第31話 他社の取り組み事例は「安全の参考書」に



サンライズ運送社長
日ノ出誠一



合同で行う安全大会の意義は
解説ページで

他社の取り組み事例は「安全の参考書」に

仲間の行動を参考に、忘れていた安全行動を発見!

掲示されたミーティングの議事録は、自身の班だけでなく、他の班の取り組みも読んで参考しましょう。
忘れていた安全行動を発見できるかもしれません。



マンガ制作: ad-manga.com

運送会社の歴史や規模によつては、過去をたどれば「定数のバック事故が発生している」と思われます。そして、バック事故の発生を受けて作成された事故報告書の対策欄には、必ずといってよいほど「これからは会社のルールである降車確認をします」と書かれています。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言いたくはないのですが、この対策だといずれまた降車確認をせずにバック事故を起こしてしまい、猛省することになるかもしれません。ルールとはみんなが守る「約束」であり、確認は自分の「仕事」と考えることで、確認の手間を惜しむことなく確認の手順を習慣にしやすいです。

安全確認は「仕事」として実践

また、仕事中に感じた危険な場面や場所について、ヒヤリハット報告を通じて仲間に知らせて事故防止につなげることは、仲間への最大の貢献です。業務都合で班ミーティングに参加できなかった人が「知らなくて」事故にあわないように、記録を残して掲示や伝達で共有をしましょう。

交通事故を起こした際に作成をする事故報告書は、経過↓原因↓安全対策の流れで書くのが基本です。最後の「安全対策」は事故を繰り返さないために書くのですが、一方その内容を「事故が起る前」に記入すれば、それは守るべき「安全目標」に変わります。対策目標として例えば「当り前の安全行動が挙げられる場合でも、先ほどの人前で「話す」ことに加え、「書く・読む」の行動により、忘れていた「安全行動」を思い出すことになるはず」。

仲間できり組むことで、仲間全員が安全に

体験の発表は相手と自分、双方にメリット!

自身の体験や自社の事例を誰かに説明することも、
話している内容が自身の耳から入ってきて、記憶がさらに鮮明になります。



取り組みを自分で発表する場合は、
相手も自分も安全になれるチャンスです!

マンガでも紹介したように、協力会社の皆さまと席を一つにして教育の機会を共有することは、「石二鳥ならぬ「席二鳥」」の機会。仕事で協力し合うだけでなく、報道されないような小さな安全活動も互いに報告し合いながら、ともに強力な安全体制を築いていきたいと思います。

トラックドライバーによる事故のニュースを見聞きすることはあっても、残念ながら運送会社による安全活動が報道で取り上げられることはあまりありません。しかし事故のない運送会社では必ず、安全でいられるための取り組みを実践しています。
同じ仕事をする他社の事故事例やヒヤリハット事例、ならびに安全対策は身近な教材、言わば「安全の参考書」となり自分ごととして捉えやすくなるものです。最も記憶に残りやすいのは自分で見たこと（自分が経験したこと）ですが、その次に自分が聞いたこと（誰かが経験したこと）になります。

安全教育の場に同席すれば「席二鳥」

他社・他者の取り組みを聞く機会は安全底上げのチャンス

同じ仕事をしていれば同じ危険が潜んでいるもの。他社や仲間の安全への取り組みを聞くことは、忘れていた安全行動を思い出す機会になるでしょう。



高柳 勝二（たかなぎ かつじ）

株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。